

香川県の地震

令和6年（2024年）2月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	1～2
香川県の地震表（震度1以上）	・・・	2
震度分布図	・・・	2～3

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果

（令和6年（2024年）3月7日）

・・・ 4

地震一口メモ

震源要素（速報値、暫定値、確定値）の違いについて

・・・ 5

この資料の震源リスト・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

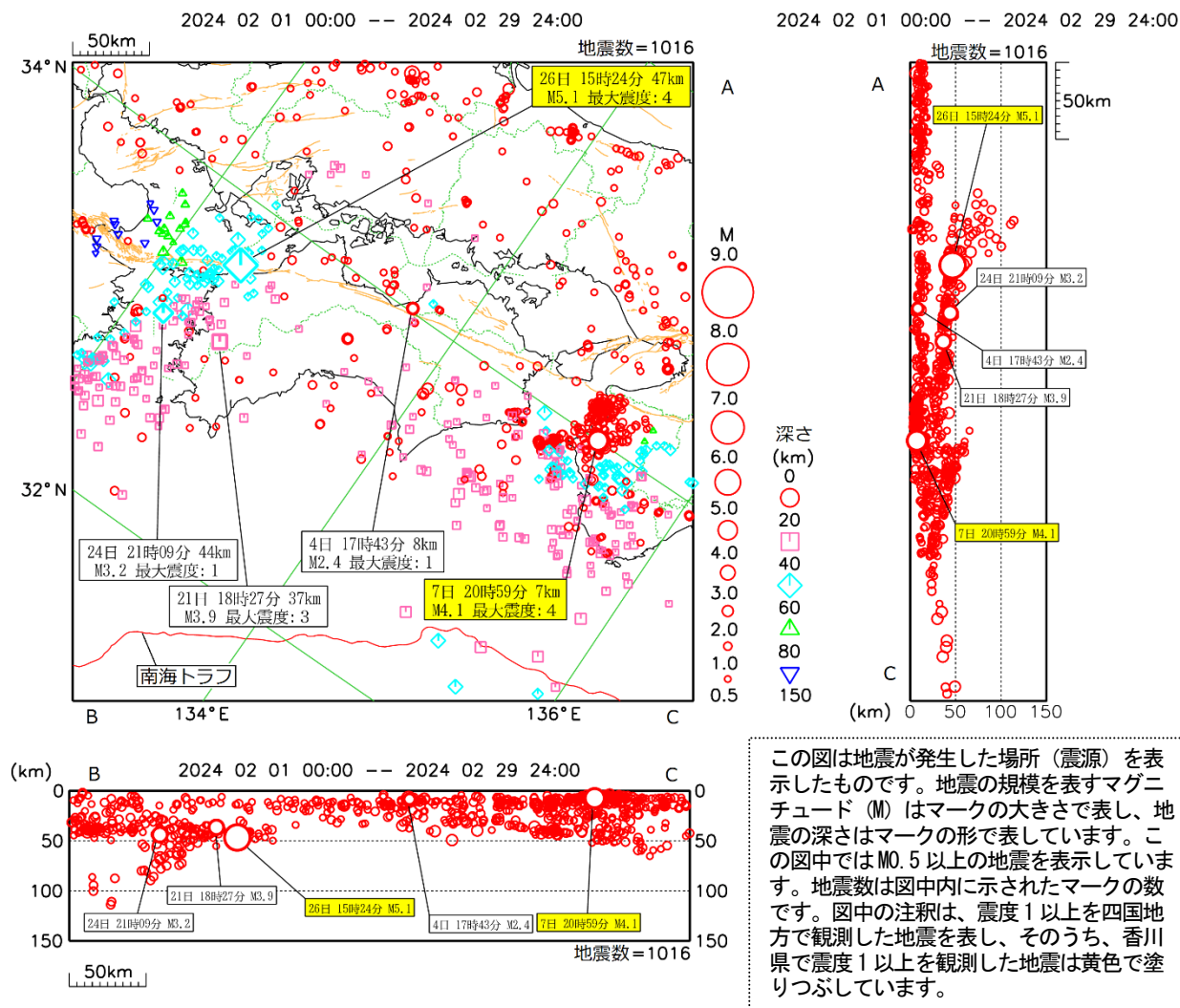
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2024年2月

◎震央分布図、断面図



〔左上：震央分布図、右上：A-Cを投影面とした断面図、左下：B-Cを投影面とした断面図〕

◎地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、次の3回でした（前月は3回）。

7日20時59分 和歌山県北部の地震（深さ7km、M4.1）により、土庄町・さぬき市で震度1を観測しました。この地震では、和歌山県湯浅町で震度4を観測したほか、近畿・四国地方で震度3～1を観測しました。

14日15時29分 京都府南部の地震（深さ12km、M4.4；震央分布図地図範囲外）により、小豆島町で震度1を観測しました。この地震では、京都府京都市伏見区で震度4を観測したほか、東海・北陸・近畿・中国・四国地方にかけて震度3～1を観測しました。

26日15時24分 伊予灘の地震（深さ47km、M5.1）により、高松市・直島町・観音寺市・多度津町・三豊市・綾川町で震度2を観測、東かがわ市・土庄町・三木町・さぬき市・小豆島町・丸亀市・坂出市・善通寺市・宇多津町・琴平町・まんのう町で震度1を観測しました。この地震では、広島県呉市・府中町、愛媛県今治市・西条市・松山市・伊予市・松前町・伊方町で震度4を観測したほか、近畿・中国・四国・九州地方にかけて震度3～1を観測しました。

四国で震度1以上を観測した地震は、前述の他に次の3回でした。

4日17時43分 愛媛県東予の地震（深さ8km、M2.4）により、愛媛県四国中央市で震度1を観測しました。

21日18時27分 愛媛県南予の地震（深さ37km、M3.9）により、愛媛県宇和島市、高知県宿毛市で震度3を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度2～1を観測しました。

24日21時09分 豊後水道の地震（深さ44km、M3.2）により、愛媛県宇和島市・八幡浜市、大分県臼杵市で震度1を観測しました。

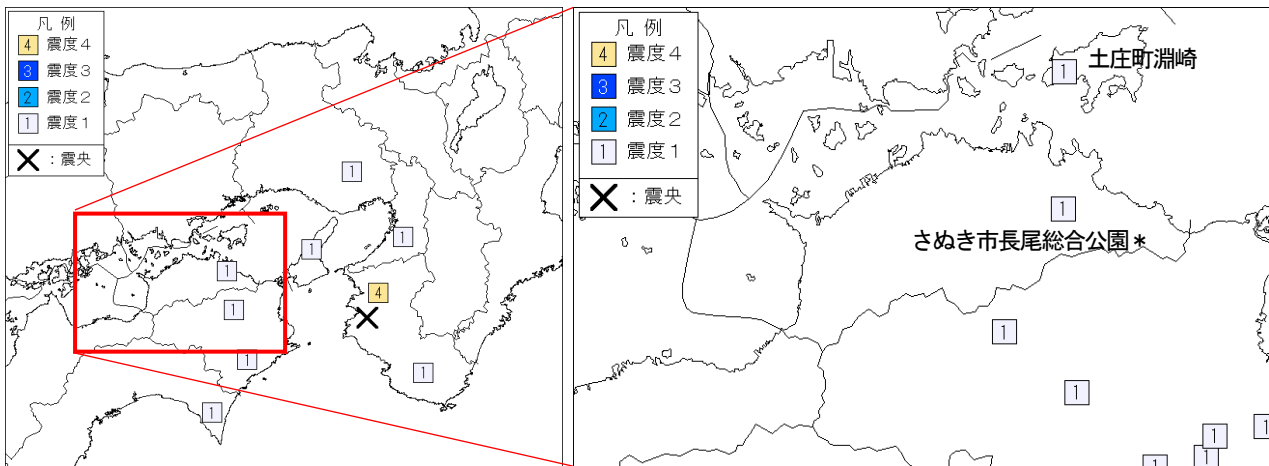
◎香川県の地震表（震度1以上）

震源時（年月日時分） 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード*
2024年02月07日20時59分 香川県 震度 1	和歌山県北部	34° 00.0' N	135° 14.1' E	7km	M4.1
土庄町淵崎, さぬき市長尾総合公園*					
2024年02月14日15時29分 香川県 震度 1	京都府南部	35° 03.2' N	135° 33.3' E	12km	M4.4
小豆島町馬木*, 小豆島町池田*					
2024年02月26日15時24分 香川県 震度 2	伊予灘	33° 38.5' N	132° 28.2' E	47km	M5.1
高松市国分寺町*, 直島町役場*, 観音寺市坂本町, 観音寺市瀬戸町*, 観音寺市豊浜町*, 多度津町家中, 三豊市豊中町*, 三豊市財田町*, 三豊市高瀬町*, 三豊市三野町*, 三豊市詫間町*, 綾川町山田下*					
震度 1 : 高松市伏石町, 高松市扇町*, 高松市塩江町*, 高松市香川町*, 高松市庵治町*, 高松市香南町*, 高松市牟礼町*, 東かがわ市西村, 土庄町淵崎, 三木町氷上*, さぬき市長尾総合公園*, さぬき市志度*, さぬき市寒川町*, 小豆島町馬木*, 小豆島町池田*, 丸亀市新田町*, 丸亀市綾歌町*, 丸亀市飯山町*, 丸亀市大手町*, 坂出市久米町*, 善通寺市文京町*, 観音寺市大野原町*, 宇多津町役場*, 琴平町榎井*, 多度津町栄町*, 三豊市仁尾町*, 三豊市山本町*, まんのう町吉野下*, まんのう町生間*, 綾川町滝宮*					

*は気象庁以外の震度観測点

◎震度分布図

2024年02月07日20時59分 和歌山県北部の地震

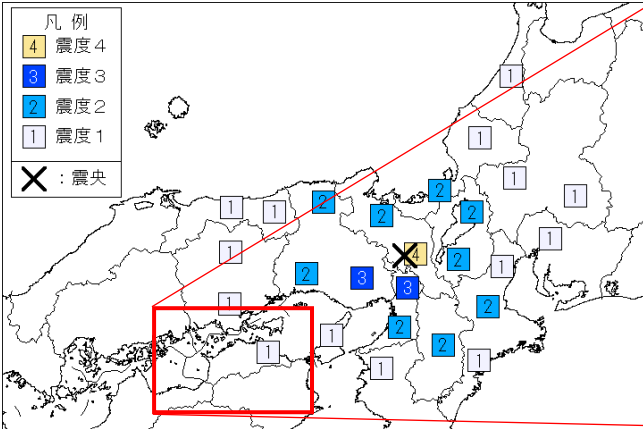


地域震度分布図

観測点震度分布図

*は気象庁以外の震度観測点

2024年02月14日15時29分 京都府南部の地震



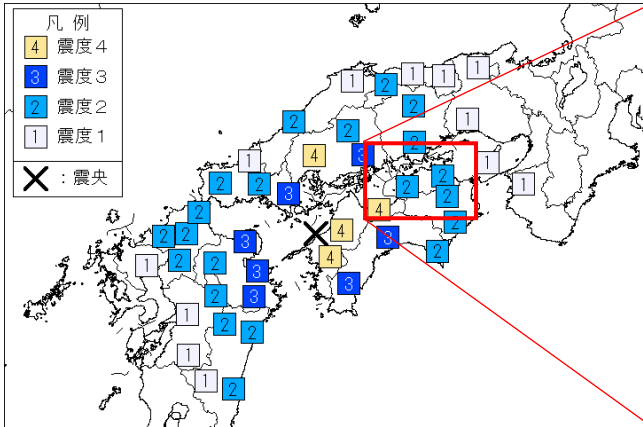
地域震度分布図



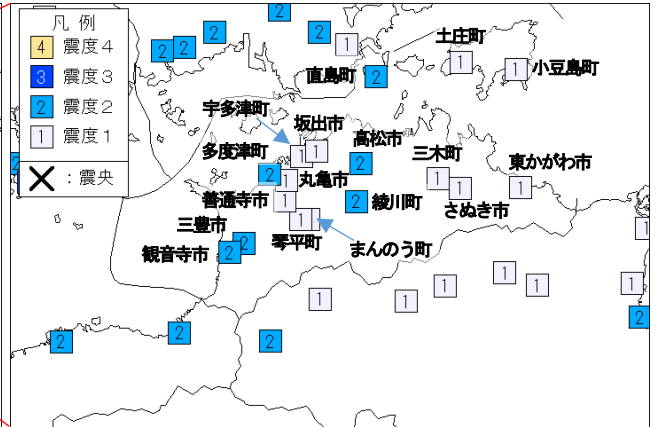
観測点震度分布図

*は気象庁以外の震度観測点

2024年02月26日15時24分 伊予灘の地震



地域震度分布図



市町村震度分布図

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

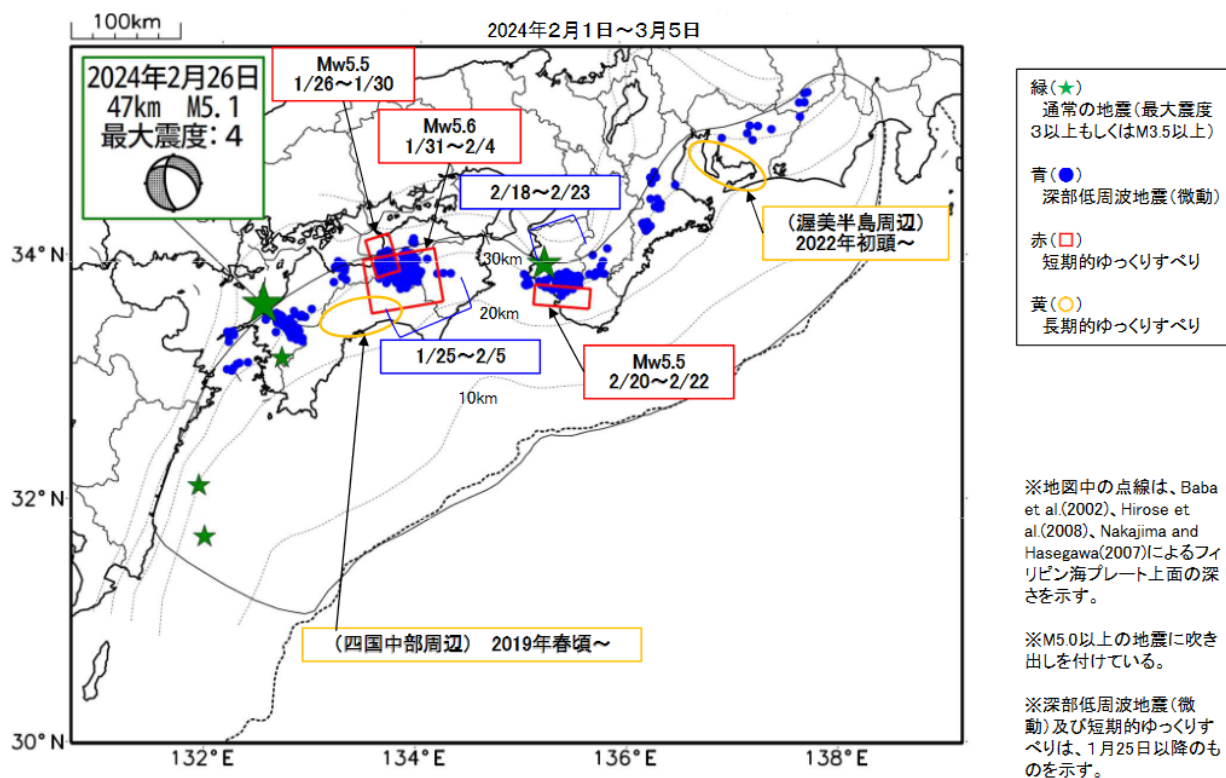
令和6年(2024年)3月7日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果 (概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の解析結果による。
深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり.....【紀伊半島西部】気象庁の解析結果を示す。【四国東部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり.....【渥美半島周辺、四国中部周辺】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青●)、短期的ゆっくりすべり(赤□)、長期的ゆっくりすべり(黄○)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2403/07a/nt20240307.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム>防災情報>南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

震源要素（速報値、暫定値、確定値）の違いについて

地震発生後、気象庁では発生した地震について、地震の発生時刻、発生場所〔緯度・経度、深さ〕、マグニチュード（これらをまとめて「震源要素」と呼びます）を決定します。震源要素は、作成されるタイミングによって、次の3つの段階に分けられます。

① 速報値

地震発生後すぐのタイミングで作成する震源要素です。緊急震源ともいいます。

地震発生後すぐに東京の気象庁または大阪管区気象台で緊急的に震源を決定し、地震情報や津波警報・注意報などの発表に用いる値のことで、

地震発生時には、何よりも速やかな情報伝達が重要ですので、「速報値」の計算には限られた地震観測点データを使います。

「速報値」では、震源（地震が発生した場所）の位置（緯度・経度）は0.1度単位で表し、震源の深さも10km単位で表します。

気象台のトップページから確認できる震源要素は、この値です。



② 暫定値

通常、地震発生の翌々日に作成する震源要素です。地震情報や津波情報・注意報に掲載・発表した「速報値」を精査して更新し、「暫定値」として公表します。

「暫定値」の計算には「速報値」よりも多くの地震観測点のデータを使います。データ数が増えるため「暫定値」では、「速報値」よりも震源要素の精度が上がります。しかし算出処理に時間がかかり通常は、地震が発生した日の翌々日に作成、公表します。

規模の大きな地震が発生した場合の「暫定値」の作成・公表は、「速報値」を発表した後、他の規模の小さな地震よりも優先させて行い、報道発表資料などで速やかに公表します。「暫定値」では、震源の位置（緯度・経度）は0.1分単位、深さは1km単位で表します。

「暫定値」は、気象庁ホームページの「震源リスト」で閲覧できます。

震源リスト https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/daily_map/index.html

③ 確定値

地震発生の数か月後、「暫定値」についてさらに精査を行った震源要素で、最終的に確定した値です。「確定値」の作成では、総合的な検討を加えるため「確定値」の公表は通常、地震の数か月以上後となります。

「確定値」では、震源の位置（緯度・経度）は0.1分単位、深さは1km単位（暫定値と同じ）で表し、気象庁ホームページの「地震月報（カタログ編）」で公表しています。

地震月報（カタログ編） <https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/bulletin/hypo.html>

ニュースや新聞等で、「気象庁は震源の深さを10kmから12kmに、マグニチュードを6.2から6.3に訂正しました」のように報道される場合があります。

この場合、「震源の深さ10km、マグニチュード6.2」が「速報値」であり、「震源の深さ12km、マグニチュード6.3」が「暫定値」です。

このように、「速報値」から「暫定値」へ切り替えるのは、誤りを訂正するというのではなく、より正確に計算して値を更新する意味合いですので、このことにご留意いただき、それぞれのデータをご利用ください。